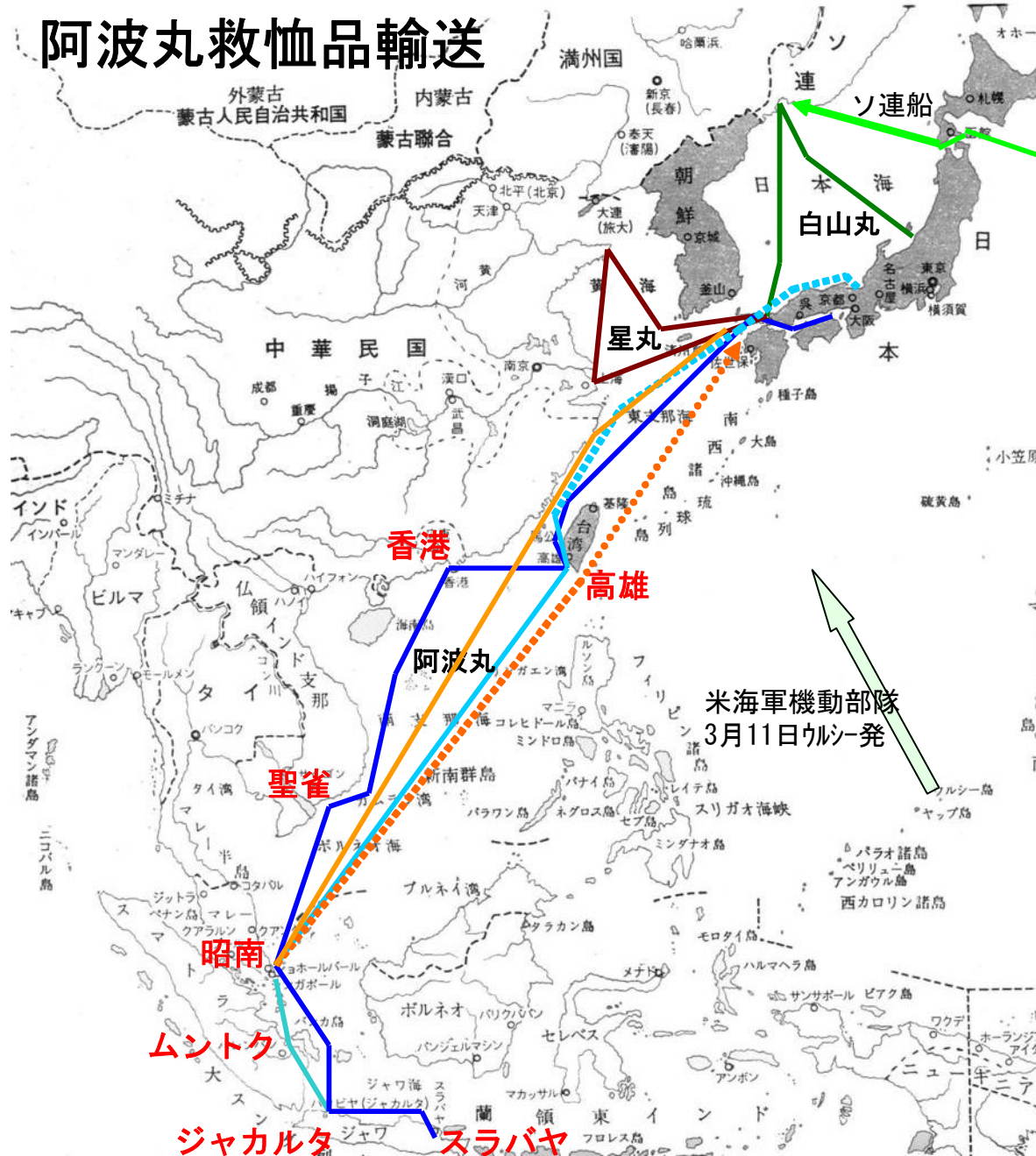


阿波丸救恤品輸送



米政府から要請された連合軍捕虜への救恤品は1943（昭和18）年9月、ポートランドからウラジオストックにソ連船2隻で運ばれた。2隻が出航した1週間後、3隻が出港、さらに10日後1隻が出港し、合計6隻で2,500トンが運ばれた。白山丸は1,900トンをウラジオストックからナホトカ経由で神戸に輸送し、800トンは内地に、300トンを星丸が神戸から中国へ、阿波丸が800トンを東南アジア各地に輸送した。

阿波丸航路

往路；青色実線

復路計画航路；燈色実線

復路；空色実線（4月1日2330まで）

復路想定航路；空色点線

変更指定航路；橙色点線

<注>

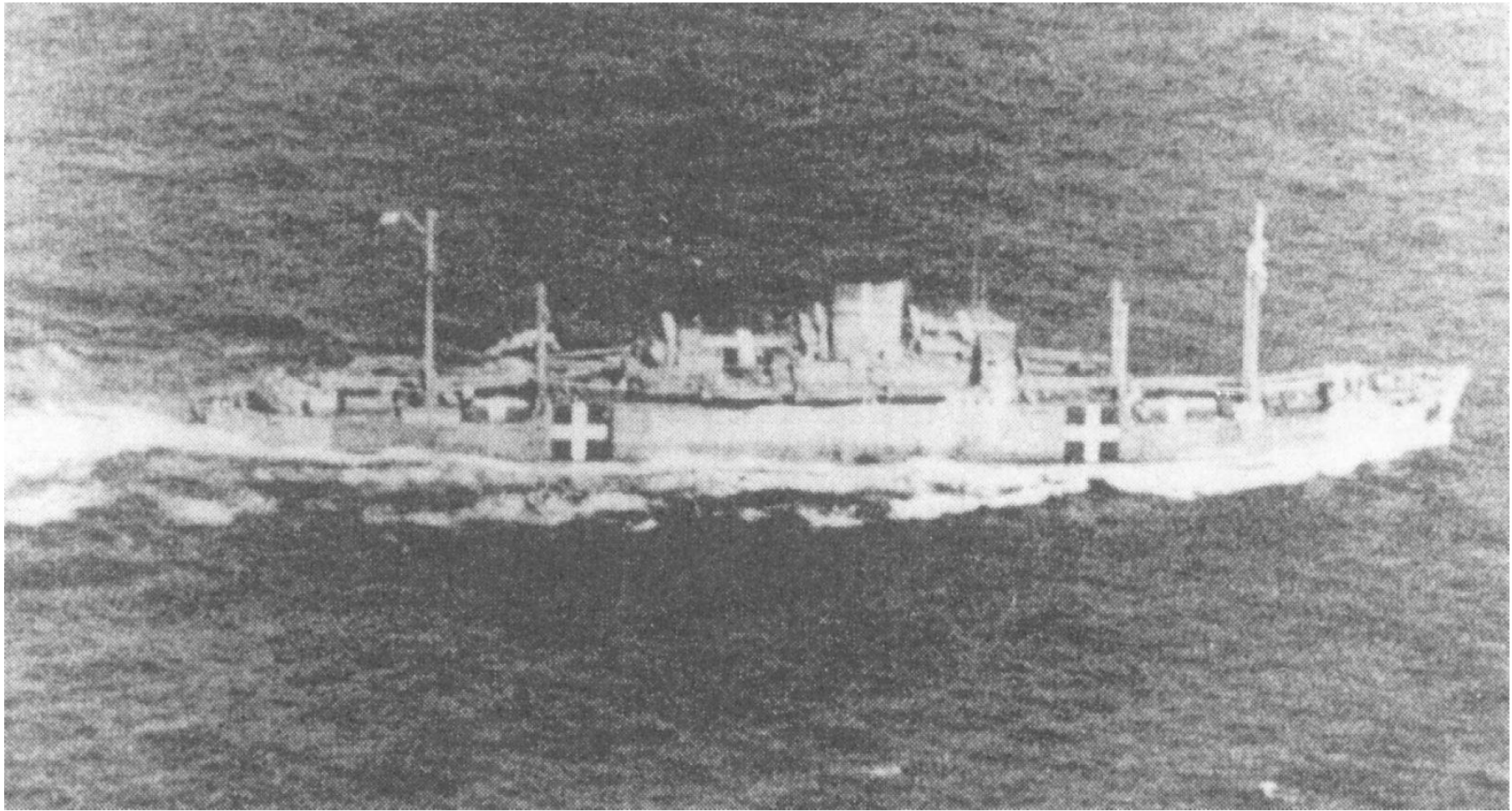
昭和20年3月26日

米軍慶良間列島上陸

昭和20年4月 1日

米軍沖縄本島上陸

阿波丸は3月27日夜にシンガポールを出港したが、沖縄上陸作戦開始のため約半日出発を遅らせられ、さらに航路も台湾東から西の海域・台湾海峡を通過するように指示されたと考えられる。



救恤品輸送船 阿波丸（日本郵船）11,249総トン 同型船：三池丸、安芸丸 船種：貨客船
全長155.5m 幅20.46m 深さ12.6m 吃水6.10m 速力20.8ノット
昭和16年 7月10日 三菱長崎造船所で770番船として起工
昭和17年 8月24日 進水 昭和18年 3月 5日 竣工

米軍が撮影した阿波丸（松井寛進著 阿波丸は何故沈んだか より）

阿波丸の航跡

救恤品の輸送

昭和20年 1月上旬 三菱神戸造船所において、陸軍徴傭輸送船を解傭され、武装も撤去するとともに、ブリッジを一段下げ、塗色も施された。昭和20年 1月30日 神戸を出港して途中宇品を経由して門司に到着

昭和20年 2月17日 門司出港

昭和20年 2月20日 高雄入港 21日 出港 救恤品22トンを下ろす

昭和20年 2月22日 香港入港 23日 出港 救恤品41トンを下ろす

昭和20年 2月25日 サイゴン入港 28日 出港

昭和20年 3月 2日 シンガポール入港 8日 出港

昭和20年 3月10日 ジャカルタ入港 1?日 出港

昭和20年 3月1?日 スラバヤ入港 1?日 出港 南西方面海軍民政府スラバヤ連絡部に所属した女性が金塊約20Kg程度を自身で運び込んだとの証言あり。

昭和20年 3月1?日 ジャカルタ入港 18日 出港 上記の女性が武官府所属の人から後日金塊を乗せたことも聞いた。

昭和20年 3月19日 ミントク入港 22日 出港

昭和20年 3月24日 シンガポール入港 28日 出港 27日2000に出港し沖で碇泊、28日早朝出港の情報もあり。

交戦国との確約のもと安導券の交付後、シンガポールから当初門司への行き先が敦賀向けに変更。

昭和20年4月1日23時30分頃、北緯25度25分、東経120度07分（台湾海峡海潭島東南東20NM付近）において米潜水艦 Queen fish (SS-393)の雷撃を受け被雷沈没。

4月7日に敦賀入港後はナトカに向け救恤品の輸送を予定していた。

日本郵船戦時船舶史及び厚生労働省から入手した遭難報告書では北緯24度41分、東経119度12分で沈没と記載されている。

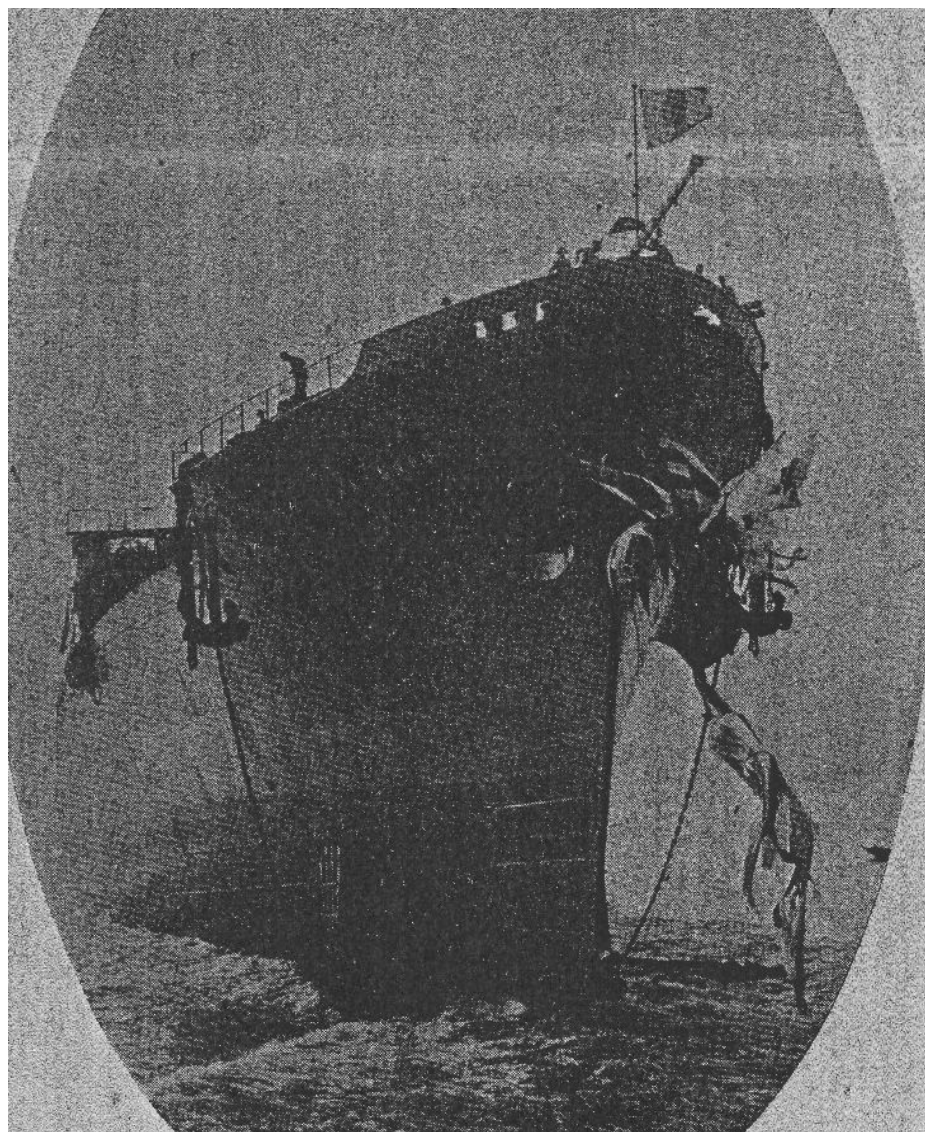
米潜水艦に収容された1名以外、乗船者2130名、船員147名計2277名戦死。

本船は日本赤十字救恤部会から国際赤十字を経由して米国政府に連絡を行い両国合意の上で運航された。船体は薄い緑色で塗色され、舷側及び上甲板には白十字の四隅を濃い緑で囲むことにより安導券を所有した船舶であることを表現していた。西貢から遭難船員も乗船し、シンガポールからはパレンバンで活躍した石油技術者約500名や遭難した商船の船員も乗船していた。

救恤品輸送船に描かれた十字

戦時中は日本赤十字社に捕虜救恤委員部が設けられ、ここから世界赤十字（スイス）を経由して相手国と合意の上、安導券（Safety Conduct）を本船に交付し航海の安全を約した船舶への塗色。

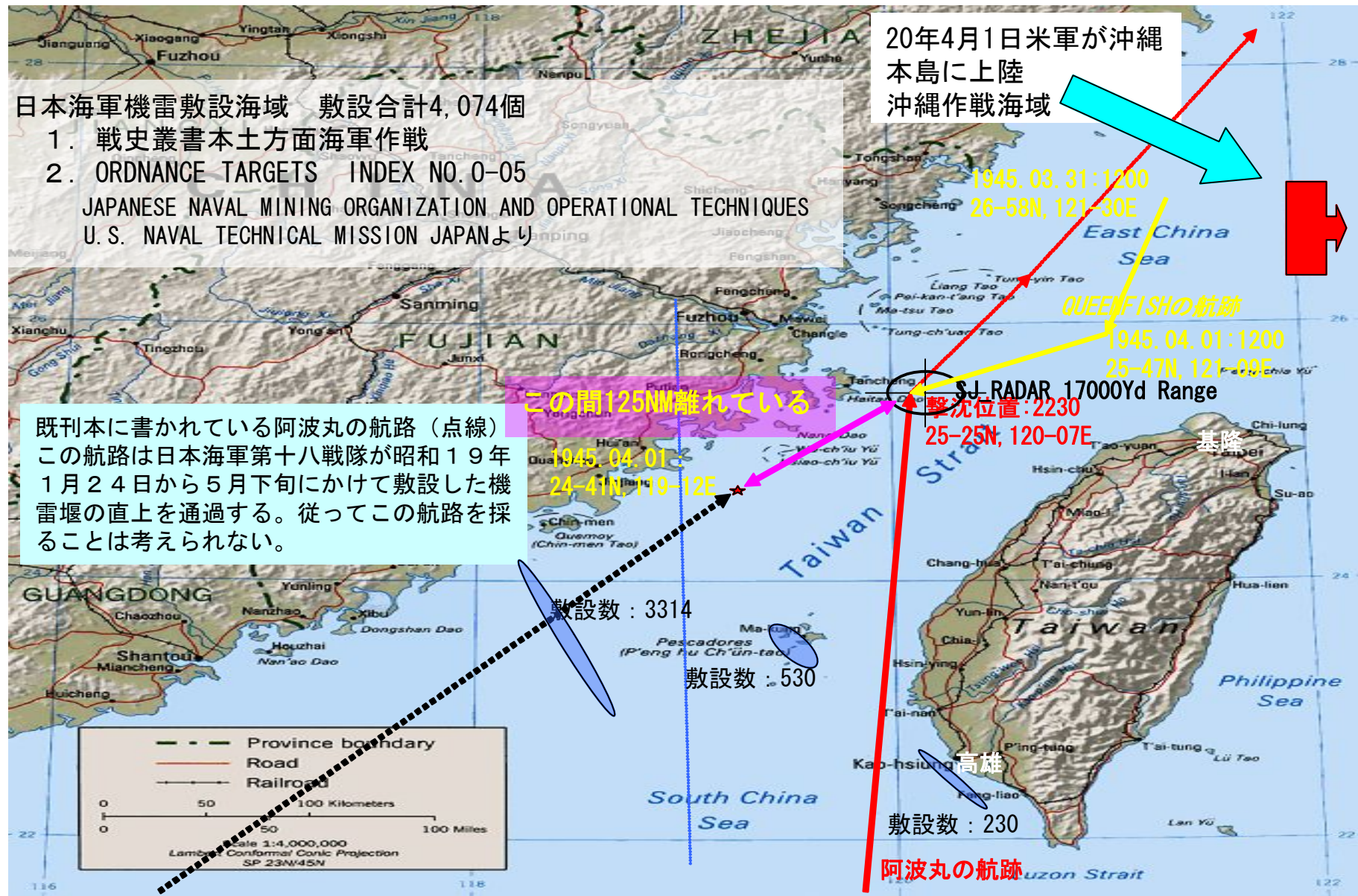
（白十字の四隅を緑で囲った）国際赤十字条約の標識



阿波丸 雑誌「海運」 17年11月号 (246)

三菱重工業長崎造船所建造 長崎要塞司令部検閲済

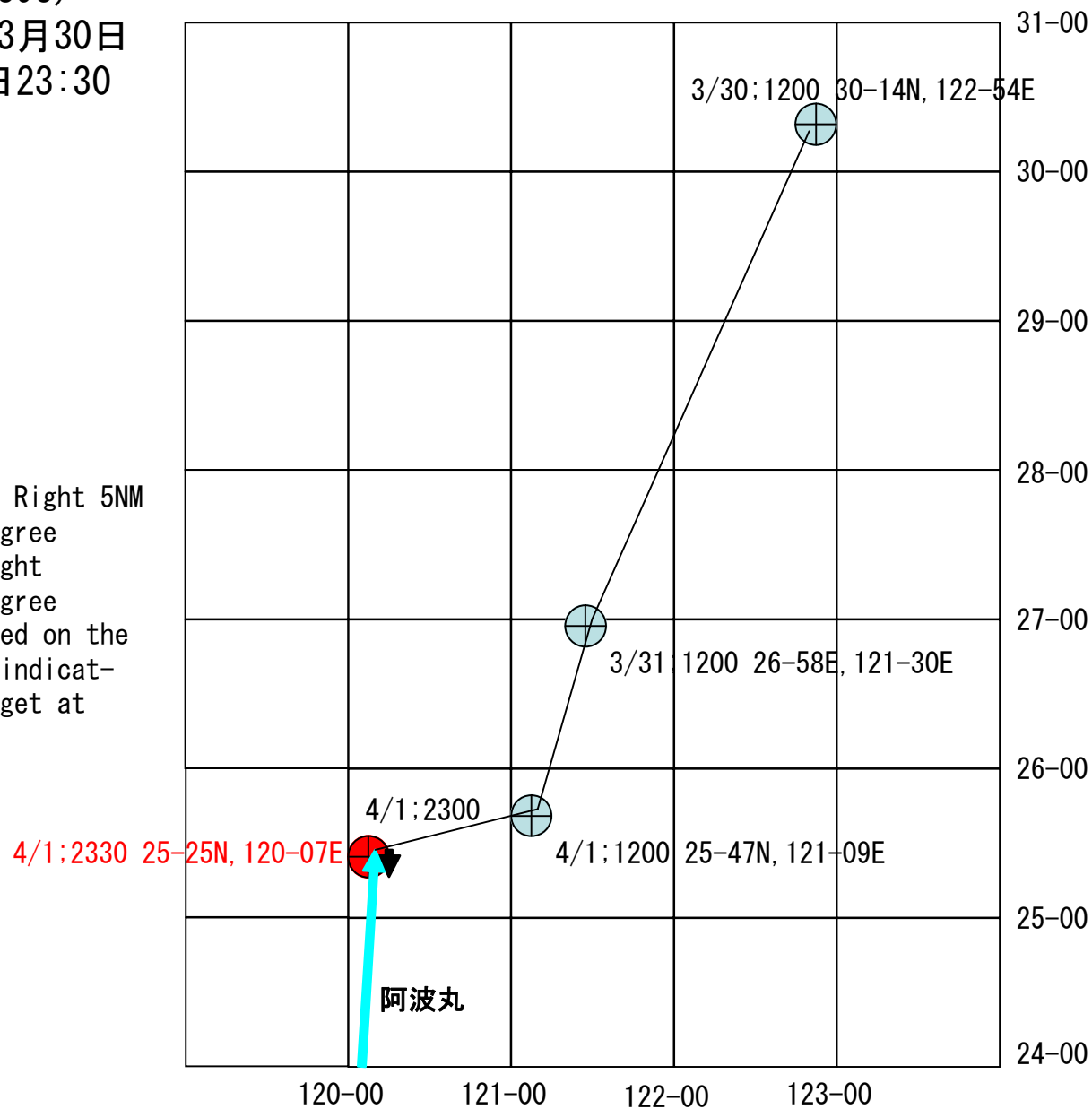
台湾海峡における日本海軍機雷敷設と阿波丸の関連図



日本海軍が敷設した海域

Queenfish (SS-393)
1945 (昭和20) 年3月30日
12:00から4月1日23:30
までの航跡

21:48 Turnocout LT Right 5NM
Bearing 225Degree
21:59 Oekseu LT Right
Bearing 230Degree
23:00 a pip appeared on the
Queenfish's radar indicat-
ing a possible target at
17,000 yards.





阿波丸 慰靈碑

奈良市 れんじょうじ 璉城寺 合掌観音像



東京 芝 増上寺

救恤品輸送船 白山丸（東亜海運）4,354総トン



昭和15年 8月14日 浦賀船渠において昭和14年12月14日起工 昭和15年8月14日進水 昭和16年8月20日 竣工
元 北日本汽船所有

救恤品輸送

昭和19年10月新潟を出港、羅津、ナホトカ、羅津を經由

昭和19年 月 日 林内入港 日 出港

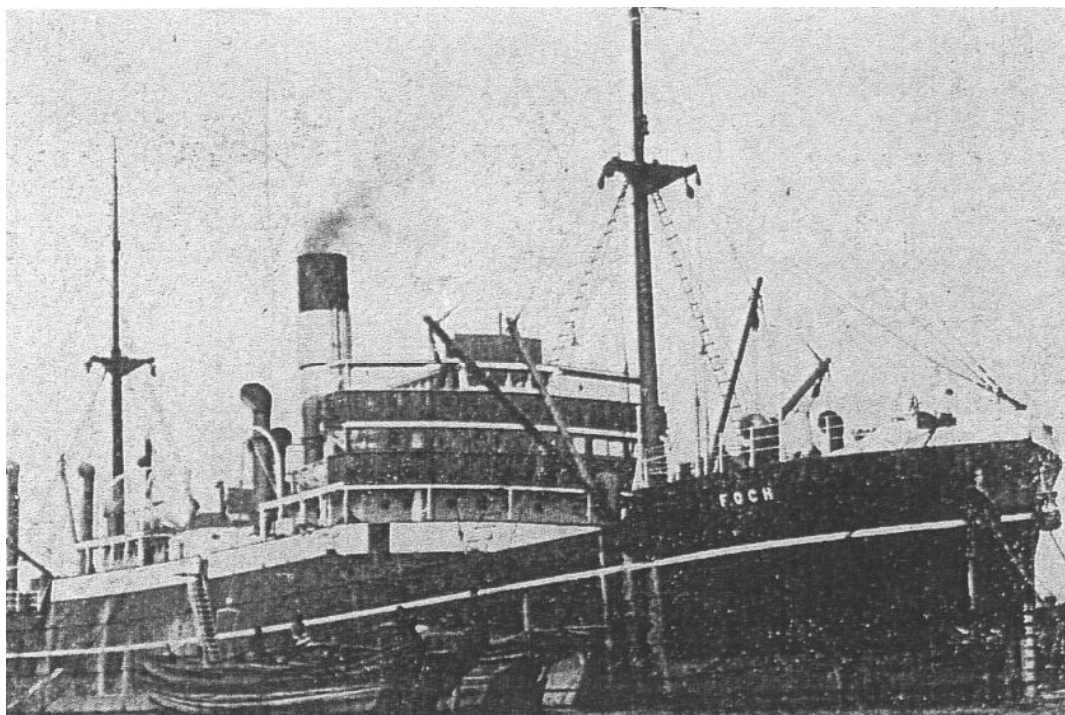
昭和19年11月10日 神戸入港 1900トンを神戸に揚陸。内800トンは日本国内の捕虜へ救恤配布

戦時中

戦後海外同胞の引き揚げ者輸送に従事。

写真 日本の客船より

救恤品輸送船 星丸（帝国船舶）2,897総トン 旧名：F o c h



1905年 英国建造 元ノルウェー船 パナマ国籍

救恤品輸送

昭和20年 1月 4日	神戸港出港		
昭和20年 1月 7日	門司入港	8日	出港
昭和20年 1月12日	上海入港	16日	出港
昭和20年 1月18日	青島入港	23日	出港
昭和20年 1月28日	門司入港		

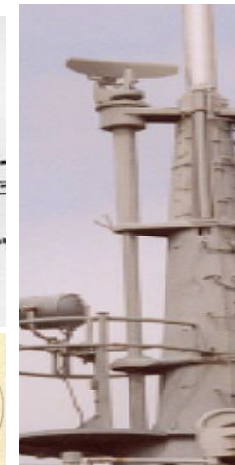
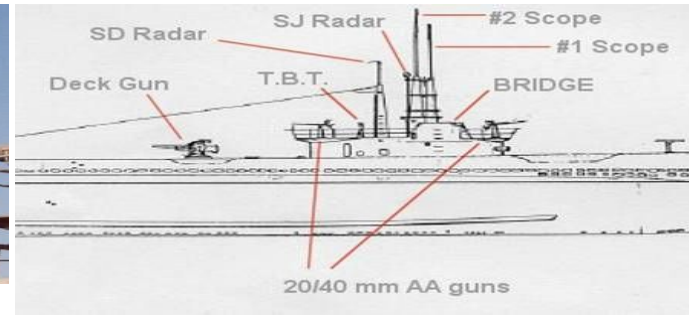
戦時中

昭和16年12月 8日	大東亜戦争勃発にともない横浜港停泊中に拿捕
昭和17年 6月	帝国船舶から山下汽船の運航となる
昭和20年 7月25日	舞鶴湾口において蝕雷により沈没。戦後引揚げ解体

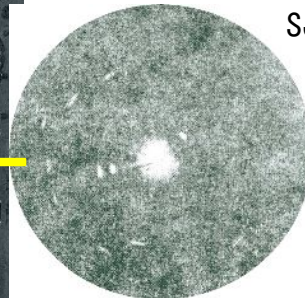
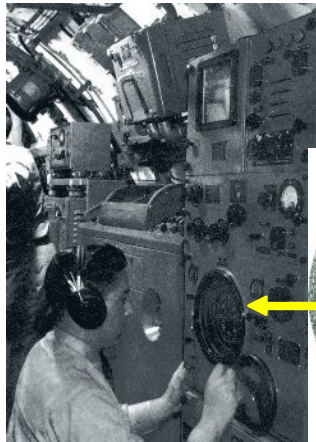
米海軍潜水艦 Queen fishクラスの
艦橋周辺図とレーダ
SDレーダは対空レーダ、SJレーダ
は対水上レーダでそれぞれの画面を
示す。



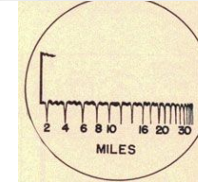
SD RADAR
Anti Aircraft



SJ RADAR
Anti Surface



SJ RADARのPPI画面
中央の輝点が自艦の位置
戦史叢書中国方面海軍作戦
昭和十三年四月以降



SD RADAR
indicate



SJ RADAR
pip indicate



USS SS-393 Queen fish



Periscope

米海軍潜水艦 Queen fishクラスの
発令所 (battle stations)
世界の潜水艦：グリーンアロー出版

SJ RADAR

Sweep control: determines the length of sweep on the scope.

- (a) Main sweep: 0 to 60,000 yards.
- (b) Expanded sweep: 0 to 20,000 yards.
- (c) Precision sweep: 3,000 yards (1,500 yards each side of the range step).

PPI-indicator unit.

1. *PPI cathode-ray tube*.
2. *Sweep selector switch*: (8,000, 40,000, 80,000 yards range).
 1. Use the PPI 80,000-yard scale (high gain) for 2 minutes.
 2. Use the PPI 40,000-yard scale (high gain) for 5 minutes.
 3. Use the PPI 8,000-yard sweep (low gain) for 2 minutes. (or "A" scope expanded sweep in hand train).

阿波丸追跡 <資料館訳>

U.S. Submarine Attacks During World War II

(Including Allied Submarine Attacks in the Pacific Theater)

John D. Alden

NAVAL INSTITUTE PRESS Annapollis, Maryland

1 APR 1945	Pt	Position	Tgt	Size	Attack	CI	So	Date	Type	Name	Tons	Dm
1/23 393	Queenfish	4	25-25N 120-07E	APK	12000	T4/4NSR	S	AIW	1	XAH	Awa M,	11249 S

Comments

Awa Maru claimed by Japan to be AH. off Formosa No likely sub attack.

上記の説明で阿波丸は1945（昭和20）年4月1日23時、USS-393 Queenfishが距離12000ヤードから、夜間浮上(NSR)し、レーダ照準のもと発射した4本の魚雷全てが阿波丸に当たり沈んだことが判る。本船の種別はXAHとなっており、米海軍の分類でAHは病院船を表しており、救恤品を輸送したとされる表示はなされていない。しかし目標(Tgt)はAPKとなっている。

A P K : Auxiairy Prisoner Keep ?

Ship AWA MARU

(April 1, 1945) Japanese passenger/cargo ship of 11,249 tons, Captain Hamada Matsutaro, sunk while homeward bound after having delivered Red Cross relief supplies to American and Allied POWs in Japanese custody under an agreement between Japan and the US Government which guaranteed safe passage for such ships.

阿波丸（1945年4月1日）11,249トンの日本の貨客船、浜田松太郎船長、米国政府と日本間の一致の下で安全な航海を保証したアメリカおよび同盟POWsに日本の管理で赤十字への救援物資を供給する船を沈めた。

The third ship to carry out this relief programme was the Awa Maru which picked up the Red Cross parcels from the stockpile at Nakhodka, one hundred miles south of Vladivostok.

この救援プログラムを遂行する第3船、阿波丸はナホトカで保管されていた赤十字の備蓄品である梱包を、ウラジオストクの百マイルの南で受け取った。**（阿波丸は神戸で救恤品を搭載）**

They had been transported there by five Soviet ships which had sailed from Portland, Oregon, in December, 1943, loaded with 2,500 tons of supplies.

それらはオレゴン州のポートランドから、1943年12月に2,500トンの荷を積んだ5隻のソビエト船によって運ばれた。The Awa Maru was painted green with large white crosses on her sides and funnel, all illuminated by special spot lights.

阿波丸は、特別なスポットライトによって照らされた本船の舷側および煙突には緑に塗られた上に大きく白い十字が描かれた。

Loaded with 175 tons of Red Cross supplies, the Japanese also loaded crates of aircraft parts, munitions and other commodities desperately needed by Japanese troops in Southeast Asia.

赤十字供給の175トンの荷とともに、東南アジアで必死に日本軍が必要とした航空機の部品、軍需品および他の商品である木枠の荷を積んだ。

This was in complete violation of the Relief for POW agreement.

これは捕虜への救援輸送の完全な違反であった。

After unloading her cargo at various stops on her journey south, the Awa Maru was now in Singapore preparing for the journey home to Japan.

南方での様々な場所で貨物の荷を下した後、阿波丸は日本に帰国する人達のためシンガポールに寄港する。

Before leaving Singapore on March 28, she had on board over 2,000 Japanese officials, diplomats, technicians, war loot and civilians, all eager to escape the Allied bombs that were now falling on the city.

3月28日にシンガポールを出港するにあたり、阿波丸には2,000人の日本の役人、外交官、技術者、戦争の戦利品および帰国を熱望している一般市民すべてが船上で持っていた。

The war loot consisted of forty metric tons of gold and 150,000 carats of diamonds, all worth over \$5 billion.

戦争の戦利品は40メートルトンの金塊および150,000カラットのダイヤモンドなど\$5,000,000,000を超す価値がある。

Calling at Jakarta, she took on 2,500 tons of crude oil, hundreds of tons of oil drilling machinery, tin ingots, tungsten and rubber.

ジャカルタで阿波丸は2,500トンの原油、何百トンもの石油開発の機械類、錫のインゴット、タングステンおよびゴムを積み込んだ。

Although the Americans knew what was going on they were reluctant to do anything about it in fear that the relief supplies would be stopped.

このようなことはアメリカも知っていたが、救援の停止を恐れ何もしなかった。

Submarine commanders were ordered to 'let it go by safely'.

艦長は「安全に」行くように発令した。

However, April 1st saw the US submarine Queenfish, Commander Charles E. Loughlin, on her fourth patrol, in the Taiwan Strait in an area near where the Awa Maru would have to pass through.

但し、4月1日米国潜水艦Queenfish艦長チャールズE. Loughlinは第4回目のパトロールで台湾海峡に近い区域で航行中の阿波丸を確認した。

At 11 pm, a pip appeared on the Queenfish's radar indicating a possible target at 17,000 yards.

午後11時、Queenfishのレーダは17,000ヤードに目標を確認した。

(注) pip(パルスのピークとピークの間で距離を算出する。)得られた数値をレーダ画面にPPI(平面投射)として表示する。

表示した点の大きさにより船の大きさ・速度・針路が把握できる。

Loaded far beyond normal limits, and traveling low in the water, the ship presented a smaller than usual radar image not unlike that of a destroyer.

正常な限界を越えて荷を積み、水線を超えて航行するのは、通常の駆逐艦のような小さなレーダのイメージではない。

(注) Loaded far beyond normal limits, and traveling low in the water

この説明からQueenfishはあきらかに本船を潜望鏡で確認しているものと思われる。レーダ画面に映る映像では船舶の姿まではわからない。

What happened next proved to be the greatest submarine error of the Pacific war.

太平洋戦争中の最も大きい潜水艦の起こした間違いであることが次によって証明された。

The Queenfish fired four torpedoes, all of which hit the target.

Queenfishは4つの魚雷を発射させ、全ての魚雷は目標に当たった。

As the submarine approached the oil covered spot where the target had sunk, the crew picked up one exhausted man from the water, a first class steward from the sunken ship, 46 year old Shimoda Kantaro, the only survivor of the Awa Maru.

潜水艦は目標が沈み油によって覆われた場所に近づいたとき、乗組員は水中から一人を拾い上げた。彼はファースト・クラスのスチュワード、下田勘太郎46歳で阿波丸唯一の生存者である。

(注) 下田勘太郎氏は司厨部員である。

Drowned in this disaster were 2,003 persons including seventy -two Taiwanese civilians.

72人の台湾の一般市民を含む2,003人が遭難した。

On arrival back at base, Commander Loughlin was relieved of his command and faced court-martial the result of which cleared him of all charges of wrongdoing.

海軍基地到着後、Loughlin艦長は職責を免じられ、結果を審議する軍法会議にかけられた。

As the ship was sunk in Chinese territorial waters, Beijing carried out the salvage and recovered the looted treasure.

本船が中国の領海で沈んでいることから、北京政府は引揚を遂行し、略奪された宝物を回収した。

以下は14 April, 1945. Loughlin艦長が報告しているReport of Fourth Patrolの記録である。

1958年9月27日に機密情報のリストから解除(declassified)されたもので、1945年3月30日正午から4月1日の撃沈にいたるまでを記す。

1945. 03. 30 1200 Position: Lat. 30-14 N; Long. 122-54E. 正午の位置 : 北緯30度14分 ; 東経122度54分

1515 Sighted aircraft to westward over line who passed well clear.

1527 Dived for trim and remained submerged patrolling off Tongting.

1755 Surfaced - proceeded south towards our own area.

1910 E???? fog Set in.

1945. 03. 31 0130 Increased speed to 17 knots proceeding to patrol station.

Fog persisted throughout night and day limiting area coverage exclusively to that within radar range.

1200 Position: Lat. 26-58 N; Long. 121-30E. 正午の位置 : 北緯26度58分 ; 東経121度30分

1201 Heard distant explosions believed to be depth charges.

1214 One brief contact on SJ at 34,000 yards, probably a plane.

Closed on are bearing 500 yard no further contact.

1600 Fog allied with area visibility.

1800 Closed Coast to establish position which was effected by radar contact on Tungyung Light at 2230.

1945.04.01 0115 After passing Tungyung within visual distance, fog set in which persisted while we proceeded towards northwest Formosa.

0930 Fog lifted sufficiently to sight peak on Formosa but closed in again shortly thereafter.

1200 Position: Lat. 25-47 N; Long. 121-09E. 正午の位置 北緯25度47分、東經121度09分

1300 Dived for trim.

1343 Surfaced - proceeded towards China Coast in vicinity of Tungkuen Light.

1645 Still heavy for SD contact at 11/2 miles, Sky was clear overhead and though it was unlikely aircraft would sight us, decided to dive when SJ picked up plane dead ahead 2,000 yards.

1940 Received SEA FOX attack report on convoy made at 1300 today.
assigned new patrol station for next three days.

At about 2115 zone time (all times noted are minus 8 zone), while on course 180 degree true, speed 8 knots, the ship's navigational position was verified by visual sighting of Turnabout Island in conjunction with radar ranges and bearings which placed the QUEENFISH 4.9 miles bearing 090 degrees true from this island. At this time, the sky was completely overcast, night dark, with visibility estimated at about 10 miles.

2148 Fog set in after we had passed Turnabout Light abeam to starboard, distant about 5 miles.

At 2148 a fog bank enveloped the ship reducing surface visibility to an estimated 200yards. Continued to plot the ship's position by radar ranges and bearings on Turnabout Island and at 2159' changed course to 225 degree true, maintaining the same speed of 8 knots.

2159 Changed course to 225° T, standing towards Ockseu Light.

2200 Fade SJ contact on single ship bearing 230° T at 17,000 yards range.

Manned battle stations torpedo, commenced tracking and approach, and sent contact message to SEA FOX.

All radar contacts, previous1: made on own and enemy ships.

indicated that contact should be the size of a destroyer or DE and the approach was made with this identification in mind.

This belief seemed to be substantiated by:

(1) high speed of 18-16 knots in fog;

(2) proximity to position of SEA FOX attack nine hours earlier;

(3) track was on-only known routs used by enemy shipping ~~always XXXX~~ portion of China coast.

At 2200, radar contact was made on a single ship bearing 230 degrees true, distant 17,000 yards. The tracking party was immediately called to station and the course of the ship changed to 050 degrees true at 2210. During the initial tracking stages, it was determined that the enemy ship was proceeding on courses from 050 degrees true to 040 degrees true at speeds of 17 to 18knots. Subsequent tracking prior to attack, however, changed the estimate of enemy course and speed to 045 degrees true, 16 knots.

Position was obtained one thousand yards off contact is track, on parallel course, until the range was closed to 3,600 yards.

Slowed to 4 knots, then swung right for stern tube shot on 90 starboard track and torpedo run on 1,200 yards.

Surface visibility was reduced to 200 yards by the existing fog with the night dark, sky partially overcast, and the moon breaking through at intermittent intervals.

Although sea condition was 2, decided upon three foot depth setting with small spread as setup checked perfectly. At

2300 with torpedo run 1,200 yards and the bridge watch, including Commanding Officer, straining to get a glimpse of the ship, commenced firing four torpedoes from stern tubes using radar ranges and bearings.

four hits resulted at the proper time intervals with the flash of the torpedo explosions discernible although the ship itself was never sighted.

2303 Increased speed and turned to head back to the attack position with the pip on the radar screen disappearing before we could get turned around.

2311 Stopped in the midst of heavy oil slick, turbulent water, and commenced maneuvering to pick up survivors of when not more than fifteen or twenty were detected clinging to bits of wreckage.

After several unsuccessful attempts to induce then to come alongside with the ?? of a life ring, one raised his arm to attract attention and after recovering the life ring was hauled to the ship. At

2329 The survivor was hoisted bodily on board after the seas had inflicted terrific punishment by banging him under and along the ship.

No cold rent information was immediately forthcoming and he was taken aboard for treatment. Continued to search for additional survivors.

Condition of sea was such that it was impracticable and undesirable to send ??? in the water to forcibly rescue them or to recover one of the great many rectangular boxes seen floating in the vicinity.

—阿波丸追跡—で記したQueenfishの行動記録は2007年6月、米国立公文書館で入手した1945年4月14日の記録であり、文中ゴシックは松井寛進著「阿波丸はなぜ沈んだか」に記載している1945年4月8日の記録である。この間1週間のずれがある。なお??は原紙の活字が消えているため判読できない文字を示す。